

Y26b 「ぐんま天文学学校」の実施結果と評価

大林 均、河北 秀世、濤崎 智佳、長谷川 隆、浜根 寿彦(ぐんま天文台)、他ぐんま天文台スタッフ

ぐんま天文台では、広く一般の方が天体観測やデータ解析を行なえるように、ぐんま天文学学校を開催した。東大木曾観測所、国立天文台、美星天文台などで類似の活動があるが、ぐんま天文学学校は参加者を高校生に限定せず社会人が主である点が特徴である。

参加者が体験をするだけでなく観測や研究の基礎を身につけられるよう、平成12年度は散開星団を題材に4泊8日で観測装置の理解、観測、データ解析、考察などを行ったが、全日程参加を条件にしたこともあり参加者が2名のみだった。平成13年度は日程を短縮し、1泊2日(CCD)、1泊2日(分光)・0泊3日(銀河)の3コースに分け、広報も充実させたところ、定員合計30名に対し41件の応募が得られたが、日程が短いぶん内容も少なくせざるを得なかった。応募者の年齢は30代・40代が多かった。

今年度はぐんま天文学学校の具体的計画を立てる前に、ぐんま天文台の望遠鏡操作資格取得講習会参加者とボランティアを対象にしたアンケートを行い、計画立案の参考にした。また、参加希望者には申し込み時にレポートを課し、参加者には終了後にアンケートに答えていただいた。年会ではこうした資料をもとにした一般の方々の天文学の学習に対する需要の分析結果を示すとともに、ぐんま天文学学校のような研究実践・体験学習事業を今後どうすべきかも議論する。